

ないものをねだるのではなく、あるものを活かす

日本独自の経済モデルで 長期的な発展を!! (後編)

(前回からつづく、後編です。経済評論家、渡邊哲也氏のお話を)
基に日本経済の可能性について、書かせていただいております。)

■世界との関わり

日本の企業は、高い技術を持っています。海外への企業進出というと、自動車や電機メーカーなど大企業のことを思い浮かべますが、中小企業も進出の機会があります。系列の仕組みがあるので、一つ大きな企業が出て行くと、それに付随して中小企業が複数出て行くということになります。

海外進出では、システムとして売り込んでいくということが大切です。インフラの輸出はこの良い例です。例えば、上下水道、高速

鉄道などです。水道の例で見ると、まず水道水の基準をどう設定するかという問題があります。生活用水として使えるレ



ベルの水道なのか、浄水技術もピカイチ!

日本のように飲料水として用いられる水準なのか、ということ。生活用水のレベルで良ければ、ヨーロッパの企業にも広く門戸が開かれますが、飲料水のレベルであれば、日本企業の強みが活かされます。また、新幹線技術も、単に速く走る鉄道ということだけでなく、安全対策、信号・制御技術、騒音対策、地震対策など、周辺の技術を含めた総合力が「売り」となります。こうした日本のインフラ技術が採用されると、メンテナンスを含めて、広い分野、また長期間にわたっての取引が生まれることとなります。

また、技術の輸出ということを考えると、それを支える人を育てなければなりません。勤勉で誠実な日本人の性質をそのまま他国においても期待するのは困難なことです。仕事に対する価値観を含めて、指導するような場面が出てきますが、その時に生きてくるのが日本の柔軟性です。八百万の神を受け入れている日本人ですから、どこの国に行っても、相手に受け入れられやすい精神性をもっています。柔軟性の中で、技術や価値観を伝えていくことが日本人には可能なのです。まだまだ、技術を必要としている国はたくさんあります。中小企業を含め、そうした国々での活躍の場は、無限に広がっています。

■国内需要を喚起するには?

人口が減る中で、内需がしぼむという懸念があります。しかし、人口が減ると必ず比例して内需が減るということはありません。どう内需を喚起すれば良いのでしょうか。それは変化を生むことです。明治維新や戦後の諸改革では大きな変化が生じ、大きな発展がありました。社会に動きがあると、経済も動きます。戦後の大きな変動があつてから、もう70年近く経ちます。大きな見直しをする時期にきています。

例えば、公私の境界を見直すことです。日本の制度は私権を重視するあまり、公共事業に時間がかかりすぎて



台湾で走る新幹線。

しまい、結果、高速道路網、空港、港湾などの大規模インフラでは、近隣諸国に大きな遅れを取ることになりました。高い公的利益が見込まれることについて

は、十分な補償をしながら私権を制限し、政策を遂行できるような環境を作ることが必要です。道路一本通すのに30年かかる、というのでは、時代に合った政策を実行することは困難です。

■前を向いて、一歩踏みだそう!

ダメだダメだ、と言っているのは、本当にダメになってしまっています。日本の良さを認識して、それを活かすような努力を積み重ねていけば、必ず未来は切り拓けます。大切なのは、明るい未来を信じて歩いていくことです。誰が悪いということではなく、自らの意思で未来を切り拓いていきましょう!!

INFORMATION

■明るい日本を創る座談会

熊谷市妻沼地区
3月27日(木)14:00 ~
妻沼小島 小林完次様宅にて
→詳細は事務所までご一報ください。

■街頭演説

3月29日(土)
11:00 ~ 八木橋東口前
11:20 ~ 熊谷駅北口
11:45 ~ 埼玉りそな銀行行田支店前
12:20 ~ 羽生市中央三丁目交差点
12:50 ~ 加須市役所入口交差点
→日時は都合により変更する場合があります。